

平成30年度 全国スポ少大会（富山） 熱中症の対応 （報告）

今年（平成30年）の夏は、記録的な高温で、東日本では平均比 +1.7℃ となり、1946年気象庁の統計開始以降、最も気温の高い年となりました。

全国スポ少大会の期間も、高温が続き、その中で注意を呼び掛け、医療関係者の協力も得ながら、試合時間の短縮も行い、事故なく大会を終えました。

大会報告及び今後の熱中症に対する対策を報告します。

○天候	8月3日（金）	晴れ	35度	
	8月4日（土）	晴れ	35度	湿度高い
	8月5日（日）	晴れ	36度	風 少し
	8月6日（月）	くもり	31度	

○選手の熱中症の状態

○8月4日（土） 救護所での治療 13人
(救急車搬送4人3台・チーム搬送5人・熱中症7人)

○8月5日（日） 救護所での治療 1人

○8月6日（月） 救護所での治療 0人

(考察)

- ・患者は、熱中症の初期状態が主
- ・試合開始前から体調不良で、救護所に来ている選手が多い。
- ・体調が悪いまま、大会に来ている選手がいる。
- ・バスの長旅、試合の緊張等心理的な面が大きい。

(反省)

- ・小矢部市にある総合病院は、小児科（15歳以下が担当）医師が当直でないため救急車による救急患者を受け入れられないと回答。
→土日、小児科の医師が当直医になるよう、依頼する。
- ・試合前、駐車場で選手の具合が悪くなり、保護者が直接救急車を呼んだ。
→本部に連絡が行かず、病院からの質問に答えられなかった。
チームで、大会本部に報告するようにする。

(取り組み)

- ・救護所で看護師が丁寧な看護を行っていただいた。
⇒体温・脈拍・血圧を測る。（30分おき）計測記録を作成。家族が病院へ送迎。
- ・試合時間を2日目から前後半8分に短縮した。
- ・2日目朝、全選手の健康状態のチェックを行った。

○ 来年度大会の取組み

○長時間の移動+試合開始前の緊張+暑さを緩和する。

取組み

- ・監督会議を早く開始し、開会式を早く終了し、選手に時間の余裕を与える。
- ・1日目の試合時間を遅らせ、選手に試合前の余裕を与える。(10時開始)
- ・試合時間は10分-6分-10分とし、十分なハーフタイムの時間を取る。
- ・帽子を着用する。試合の帽子着用は強い推奨とする。
- ・朝、体調が悪い選手は、グラウンドに行かず、宿舎等で休ませること。
- ・てんかん等持病のある選手は、十分な氷の用意をする。
- ・救急に小児科担当医がない場合は、金曜日を試合第1日目とすることも検討
- ・危険な暑さが想定される時は、朝、各チームに健康管理の報告を義務付ける。
- ・大会前から、栄養のある食事、十分な睡眠を取り、規則正しい生活を送る。

○ 医師のコメント

熱中症は、毎年、高齢者が目立つが、今年は特に子どもが多い傾向がある。子どもは集団行動の中で体調が悪いとなかなか言い出せず、重症化しやすい。見守る大人が体調を常に気遣うことが大切。